

ぐんぐんキッズ 放課後等デイサービス自己評価表

環境・体制整備	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			1:1学習エリア、自立学習エリア、あそびエリア、一人で過ごすエリアなど、どここのエリアで何をするかを明確にし、一人一人に応じた支援ができるスペースを確保している。
	職員の配置数は適切であるか	○			
	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			他の子どもが気になり集中できない子どもに対しては、パーテーションなどを使って刺激を遮る工夫をしている。

業務改善

	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			毎日スタッフ間で話し合いをする時間を設けて、課題に対する解決方法を考えている。
	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			口頭や連絡帳を通して意見をお聞きし、対応している。
	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			ホームページに公開
	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○			第三者による外部評価は行っていないが、当会全体として、専門の先生方からスーパーバイズをしていただきながら、より良い支援を行えるよう日々改善を行っている。
	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			講演会への参加、外部で行われている研修を紹介し希望者が受講(参加費助成)。スキルアップのための研修を積極的に行っている。

適切な支援の提供

	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			毎日、活動の結果を評価し、次の課題を考えている。支援計画実施の際は、半年間の評価書を作成。支援計画作成の際には、個別面談を行い保護者のニーズを聞いて作成している。
	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			認知、コミュニケーション、社会性等、アセスメントして目標を設定している。
	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			必要に応じて職員で連携し立案を行っている。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			毎日の活動を評価し、スモールステップの成長を図るようにしている。
	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			利用時間数に応じて対応している。

子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			一人一人の状況を把握して個別支援計画を作成している。
支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			その日の担当や支援内容については、事前に話をする時間を作っている。
支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			その日に起きたことを個人記録に記載するとともに、終了後のミーティングで共通理解や今後の事について話し合うようにしている。
日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			毎日、個人記録に記載し、これまでの状態の把握や今後の対応に繋げている。
定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			日々の評価や継続的な評価を元に必要に応じて随時行っている。
ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○			組み合わせた活動を行っている。

関係機関や保護者との連携

障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			必要に応じて、子どもの状況をよく知ったものが参画している。
学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			個別の必要に応じて、情報交換など連絡調整を行っている。
医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			○	該当なし
就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			必要に応じて実施している。
学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか			○	機会なし
児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			必要に応じて専門機関への相談・連携を行うことができる。
放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			○	利用している子どもは、いつもと違う活動など不安が強くなるため、十分な配慮が難しい環境での活動はしていない。
(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			当会として積極的に参加している。
日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			療育での様子を毎回伝えるようにしている。家庭での様子もお聞きし、共通理解のもと支援を考えることができるようにしている。
保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			勉強会を開催して、特性理解や関わり方が学べる機会を設けている。それぞれのお子さんの特性の応じた支援が家庭でもできるように、相談対応や情報提供を行っている。

保護者への説明責任等

運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			書面を基に説明を行い、十分な理解を得たうえで同意書に署名をしていただいている。
保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			相談に応じて助言と支援を行っている。
父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者勉強会を開催し、座談会も開き交流ができるようにしている。
子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			日常的に質問・要望などがあれば誠意をもって迅速に対応している。
定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月刊行している当会の会報の中で当事業所の活動の報告などを行い、更に必要な情報については、その都度連絡を行っている。
個人情報に十分注意しているか	○			職員に対して、在職中はもちろん退職後においても利用者その他個人情報の保護に関しては厳重に説明を行い、注意を徹底している。
障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			子どもの理解力に合わせた配慮をしている。保護者にも伝え方の配慮などを行っている。
事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		利用者は知らない人との関わりが苦手なので交流の場は作っていない。希望される方の見学やホームページでの情報公開をしている。

非常時等の対応

緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			マニュアルは保護者にも閲覧できるようにしている。職員も共有している。
非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			非常災害時のマニュアルの確認を行っており、年に一回避難訓練を実施するよう計画している。
虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			研修を代表者が受け、報告を共有するようにしている。
どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束は行わない。不適切な行動については原因への対策を考えるようにしている。
食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			必ず保護者に確認している。
ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか		○		療育の間は細心の注意を払っているため、事例集の作成をする必要性は感じないが、普段の業務の中で感じることについては共有していきたい。